



岐阜市活性化へ 県同友会が議論

委員会初会合

県経済同友会は、中心市街地活性化をテーマにした「岐阜市のまちづくりを考える委員会」を発足し、2日に岐阜市内で初会合を開いた。写真。

同友会のメンバー27人で構成し、中村源次郎筆頭代表幹事(秋田屋本店社長)が委員長を務める。年内に会合を3回開き、来年1月をめどに政策提言を発表する。

初会合では、中村委員長が「県都の岐阜市が活性化しないと県全体が活性化しない。産業振興の視点から提言をまとめたい」とあいさつした。委員からは「観

光のまちか、住みやすいまちか方向性を決めるべき」「高齢者だけではなく子育て世代が住めるまちが良い」などの意見が出た。